

令和8年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

<p>目指す 学校像</p>	<p>不易を押さえつつ時代の趨勢を見極めながら商業の知識等をもとに未来のあり方を深く考えることができる心身ともに健やかな人材を育成する。</p>			
<p>三つの方針</p>		<p>具体的目標</p>		
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>○社会の動向に関心を持ち、自らの役割を判断して行動できる人材の育成 ○自ら考え学ぶことをとおして、自身の強みを社会に生かそうとする人材の育成 ○地域社会のニーズや期待に応え、信頼され必要とされる人材の育成</p>		
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>○生徒一人ひとりの長所を伸ばす。 ○商業に関する専門知識の習得。 ○バランスのとれた知・徳・体の育成 ○進路希望の実現</p>		
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>○世の中の動きやビジネスに興味・関心を持ち、商業に関する学習に積極的に取り組む生徒 ○目標を持って意欲的に活動し自分の可能性を伸ばそうとする生徒</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成 状況</p>
<p>【学習指導】 学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。また、グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。生徒個々がタブレット等を活用し、互いに学習評価をすることができている。ICT機器を活用し基礎基本を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」と所感する生徒が増えている。 教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図ることにより、自律的活動力や自我理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成していく。 連携型キャンパス制の本格的な導入にあたり、結城一高と緊密に連絡を取り合い、オンラインでの効果的な授業展開の準備を図る。</p>		<p>心の教育を充実させ豊かな人間性と社会性の育成に努める</p>	<p>ホームルームや授業におけるグループ活動などをとおして、自分の表現力や相手の考えを理解しようとする態度を養う。 地域で行われる活動に目的意識をもって参加することで、自分と社会との関係、社会貢献の意義について理解する。 校内での挨拶習慣を基盤とし、公共の場におけるマナー指導を行い、社会人としての基礎を築く。</p>	
<p>【進路指導】 求人票デジタル化システム(シューサポ)を導入することで、生徒及び保護者が迅速に求人情報を入手できるようになった。 履歴書をPCで作成することにより、効率的に応募書類の準備ができるようになった。 生徒・教員が利用しやすい進路資料室・進路指導室をめざし整備がすすんだ。 インターンシップや企業説明会への参加者を増やし、企業への理解を深め、就職後の離職率低下に努める。 「入れる学校」から「入りたい学校」へ意識の向上を図り、指定校推薦以外の入試にチャレンジさせる。</p>		<p>商業に関する専門的知識などの学びを社会に生かそうとする態度の育成に努める</p>	<p>商業および関連する知識・技術・技能を身に付ける。 商業の学びが進路選択に生かされるようキャリア教育を充実させる。 各学科の特性に応じた検定試験に計画的に挑戦することで、実社会との関りについて深く理解する。</p>	
<p>【生徒支援】 規範意識の高い生徒の割合が増えており、学校全体としての秩序が保たれている。「服装指導票」が有効に活用されるようになり、学年間の指導基準の格差等もほとんどなくなり、足並みのそろった指導体制が整ってきたと思われる。QRコードを活用した「学校生活アンケート」を月1回程度実施することによって、盗難や人間関係トラブルの早期発見等に効果があった。今年度も引き続き実施していきたい。 SNSの適切な利用については、家庭の協力も得ながら、ネット上のトラブルを未然に防止していきたい。また、ここ数年、自転車の乗り方に対する苦情や交通事故件数がなかなか減らない状況が続いているので、罰則強化で青切符を切られる対象となった「ながらスマホ」や「傘差し運転」等に対する注意喚起、ヘルメット着用の呼びかけなども行い、交通マナーや安全運転の意識を向上させたい。 「生徒支援部」に改名された経緯や意図を我々教職員がきちんと理解をした上で、今まで以上に、生徒の多様性を重視しながら、生徒の抱えてる悩み等に寄り添った支援体制を整え、安心安全は教育環境にしていく。</p>		<p>魅力ある授業実践のための授業改善と授業力向上に努める</p>	<p>相互授業参観や教員間での情報交換を行い、生徒の学習意識を引き出す効果的な指導法を見出す。 タブレット端末の活用などにより家庭での学習習慣の確立を図る。 生徒の習熟度に応じた課外学習や学習支援を行い、得意科目の学力伸長と基礎学力の習得を両立させる。 授業評価における授業満足度で、学校平均3.5以上を目指す。</p>	
<p>【特別活動】 全体を通して、生徒会役員・実行委員がリーダーシップを発揮し、前年度以上に生徒の意向を汲み取った主体的な行事運営を行うことができた。 文化的行事においては、生徒総会での要望を反映し、ステージ発表における身だしなみのルールを緩和したことで、生徒一人ひとりの自己表現が豊かになり、主体的で意欲的な発表へとつながった。 体育的行事では2日間開催を導入し、球技や綱引き、リレー、人の字跳びなど多彩な種目を実施した。競技時間を十分に確保したことで、生徒一人ひとりの活躍の場が広がり、クラスの連帯感と団結力をより一層深めることができた。 結城一高との連携では、地域のイルミネーション事業において本校生徒がデザイン案を立案した。両校合同での装飾活動や点灯式の運営に携わったことは、生徒にとって大きな自信となった。また、文化的行事では両校の文化部が連携して伝統文化の体験ブースを共同運営したほか、作品の共同制作を行い、生徒間での相互理解を深め、充実した活動を展開することができた。</p>		<p>生徒、教職員が安心して活動に専念できる安全な学校づくりに努める</p>	<p>月1回実施している「学校生活アンケート」を継続し、人間関係のトラブルやインターネットなどの不適切利用を早期に発見し適切な対応を図る。 教員やスクールカウンセラー等との個別面談を適切に計画するなど相談体制の充実を図る。 施設管理や学習環境の整備を常に意識し、生徒・教職員が安全に活動できる体制を構築する。 交通安全指導の徹底と交通違反の根絶に努める。</p>	
<p>【特別活動】 全体を通して、生徒会役員・実行委員がリーダーシップを発揮し、前年度以上に生徒の意向を汲み取った主体的な行事運営を行うことができた。 文化的行事においては、生徒総会での要望を反映し、ステージ発表における身だしなみのルールを緩和したことで、生徒一人ひとりの自己表現が豊かになり、主体的で意欲的な発表へとつながった。 体育的行事では2日間開催を導入し、球技や綱引き、リレー、人の字跳びなど多彩な種目を実施した。競技時間を十分に確保したことで、生徒一人ひとりの活躍の場が広がり、クラスの連帯感と団結力をより一層深めることができた。 結城一高との連携では、地域のイルミネーション事業において本校生徒がデザイン案を立案した。両校合同での装飾活動や点灯式の運営に携わったことは、生徒にとって大きな自信となった。また、文化的行事では両校の文化部が連携して伝統文化の体験ブースを共同運営したほか、作品の共同制作を行い、生徒間での相互理解を深め、充実した活動を展開することができた。</p>		<p>保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める</p>	<p>生徒の興味・関心、得意分野を把握しミスマッチが起こらない進路指導を進めていく。 生徒・保護者アンケートの結果を丁寧に分析し、学校運営における具体的な改善策を検討する。 郊外活動や学校ホームページを有効に活用し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。</p>	
<p>【特別活動】 全体を通して、生徒会役員・実行委員がリーダーシップを発揮し、前年度以上に生徒の意向を汲み取った主体的な行事運営を行うことができた。 文化的行事においては、生徒総会での要望を反映し、ステージ発表における身だしなみのルールを緩和したことで、生徒一人ひとりの自己表現が豊かになり、主体的で意欲的な発表へとつながった。 体育的行事では2日間開催を導入し、球技や綱引き、リレー、人の字跳びなど多彩な種目を実施した。競技時間を十分に確保したことで、生徒一人ひとりの活躍の場が広がり、クラスの連帯感と団結力をより一層深めることができた。 結城一高との連携では、地域のイルミネーション事業において本校生徒がデザイン案を立案した。両校合同での装飾活動や点灯式の運営に携わったことは、生徒にとって大きな自信となった。また、文化的行事では両校の文化部が連携して伝統文化の体験ブースを共同運営したほか、作品の共同制作を行い、生徒間での相互理解を深め、充実した活動を展開することができた。</p>		<p>ICT機器活用などによる業務改善により働き方改革に努める</p>	<p>常に業務目的をふまえた改善意識を心掛ける。 教員負担が軽減できるよう、ICT機器活用能力を向上させる研修を実施する。</p>	
<p>【特別活動】 全体を通して、生徒会役員・実行委員がリーダーシップを発揮し、前年度以上に生徒の意向を汲み取った主体的な行事運営を行うことができた。 文化的行事においては、生徒総会での要望を反映し、ステージ発表における身だしなみのルールを緩和したことで、生徒一人ひとりの自己表現が豊かになり、主体的で意欲的な発表へとつながった。 体育的行事では2日間開催を導入し、球技や綱引き、リレー、人の字跳びなど多彩な種目を実施した。競技時間を十分に確保したことで、生徒一人ひとりの活躍の場が広がり、クラスの連帯感と団結力をより一層深めることができた。 結城一高との連携では、地域のイルミネーション事業において本校生徒がデザイン案を立案した。両校合同での装飾活動や点灯式の運営に携わったことは、生徒にとって大きな自信となった。また、文化的行事では両校の文化部が連携して伝統文化の体験ブースを共同運営したほか、作品の共同制作を行い、生徒間での相互理解を深め、充実した活動を展開することができた。</p>		<p>ICT機器活用などによる業務改善により働き方改革に努める</p>	<p>勤務状況を把握し、誰もが無理なく働ける業務の配分を目指す。</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	国語の基礎的な知識・技能をしっかりと身に着ける。	定期テストや単元テストに加え、ノートや課題集等の点検を行い、学習内容の理解度を評価する。		
		様々な場面や状況に即した思考力・判断力を育成する。	文章の論理を正しく読み取ったり、わかりやすく説明したり、情報を適切に取捨選択したりする力を身に着けられるよう指導する。		
		様々な状況に応じて書いたり、話したり、聞いたりすることにより、表現力を育成する。	感想文や実用的な文章を書く授業や、スピーチや話し合いの授業を通して、自分の考えを構築し、表現する機会を設ける。		
		自ら考え、主体的に学習する態度を養う。	ICT（スタディサプリ等）を活用し自己の学習を振り返ったり、学びを深めたりする助けとする。		
	漢字検定を受検する生徒を増やし、合格に向けて支援する。また、自治体が主催する俳句や短歌等の賞に応募する。				
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題や生徒が興味を惹かれる話題を学習課題として設定する。		
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、生徒がアウトプットできる課題を設定したりするよう心がける。		
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させさせる。		
	基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。			
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎的な学習内容を理解したあとに、問題演習の時間を十分に確保することで知識の定着を図る。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。タブレットを活用し、家庭学習の機会を確保する。		
			授業中に発問や机間指導を行うことで、生徒とのコミュニケーションを図り、苦手な生徒には個別に対応する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。適宜小テストを実施し、単元ごとの理解度を把握する。		
	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	グループ活動を取り入れ、意見を交流する機会を作る。また考えを黒板に記述させ発表させたり、その解答について考察する時間を設ける。			
理科	基礎的な学力の定着を図る。	中学での内容にもさかのぼって復習しながら、理科に関する基本的な法則・公式を理解し、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。			
	受け身ではなく、能動的な授業参加を促す。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、生徒の発表機会を増やして自己肯定感を高めながら、理科に対する苦手意識を少しでも払拭する。			
	日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	ICT環境の有効活用及び、生徒実験・演示実験を適度に取り入れることで、科学全般に対する生徒の興味・関心を高める授業展開に努める。			
	物理実験室・化学実験室を整備し、他教科も含めた授業での有効活用を促す。	物理室に加えて、昨年度、化学室にもエアコンを設置してもらったことを受けて、実験のみならず、グループ学習や映像教材視聴等、様々な形態の授業を取り入れていきたい。他教科や学年の指導等にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。		
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。		
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ、体育祭種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
	英語	基礎学力の向上	ICT機器を効果的に用いて言語活動の時間を増やし、基礎学力の定着と向上に努める。		
			単元ごとに確認テストや小テストを行い知識の定着を確認し、課題を提出させることで、理解不足の生徒に対する継続的な指導に努める。		
		資格取得	1年次生は全商英検3級合格者60%～65%を目標に、上位の級の合格者も出るよう授業・課外等で効率的な指導に努める。情報ビジネス科の生徒及び意欲的な生徒には2級への積極的な取り組みを促す。		
		実践的コミュニケーション能力の向上	ALTとのティームティーチングを最大限に活用し、リスニングやスピーキングのスキルと自信を高め、主体的にコミュニケーションを図る土台をつくる。		
	ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。				
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	ICT機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。		
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。		
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。		
	商業	指導の充実とICTの日常化	生徒主体の授業改善とICT活用により、ビジネスの基礎知識を確実に定着させ、「わかる・できる・楽しい」授業を実践する。		
			デジタル教材を授業に導入し、個々の進度に応じた「個別最適な学び」を推進するとともに、端末を用いた小テストにより知識の定着度をリアルタイムで把握・改善する。		
地域連携と実践力の育成		地域の各種イベント等での販売実習を計画的に実施し、接客業務を通じて社会人としての規範意識と課題解決力を高める。			
商業教育の魅力発信		中学生向けの体験入学や出前授業の内容を実習中心にリニューアルするとともに、日々の活動や検定・大会の結果をホームページ等で積極的に発信する			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	教務	I C T教育の5つのメリット（わかりやすい授業、学習の効率化、校務の効率化、個別・協働学習、情報活用能力）を活かすため、職員個々のタブレット機器活用度合いのばらつきを解消する。生徒の学習意欲や集中力アップをねらい、積極的にI C T教育を活用しG I G Aハイスクール構想の実現を目指す。	タブレットの活用場面を明確化することで、効率的な一斉学習を実現する。また、タブレットを活用することで、効率的な調べ学習や好奇心に合わせて自主的な学習の後押しする。	
			相互授業参観を通してI C T機器利用技術およびタブレット活用の情報を職員で共有し、利用技術の向上と活用頻度を高める。	
		「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	前年度の評価データを分析し、評価規準の妥当性を再検討する。	
		基礎学力の定着を図り、学業不振の転退学者の減少に努める。	「到達度テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、スタディサブリの「配信機能」を活用し、家庭での学習に取り組む機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促す。	
		生徒の個別最適な学習の支援および実現	生徒の学習能力差に応じた学習内容を提示し、放課後の課題等、個別的な学習活動を支援する。	
		授業時間の確保に努める。	学校行事の精査を行い、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。	
		情報の保護・管理に努める。	茨城県が定める個人情報の取扱いに係るガイドライン、および県立学校情報セキュリティ対策基準に則り学校における情報管理の徹底を図る。	
	学校ホームページの適正な運営と積極的な活用によって教育活動の公表に努める。	各校務分掌に更新権限を付与し、行事等の積極的な更新を継続し、本校教育活動の可視化の質を高める。		
	生徒支援	挨拶の活性化及び時間厳守に努める。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。また、時間厳守の大切さを様々な場面で伝え続け、登校時8:35までに入室の遵守や、授業開始時の遅刻者数を減らす。	
		校則の遵守及びマナーある行動を促す。	月1回の頭髪服装指導に加えて、「服装指導票」を有効に活用しながら、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。また、マナーある行動を促しながら、他人を思いやる心を育む。	
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、探求の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。	
		交通に関する規範意識を高め、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やHR等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、危険が伴う「ながら運転」などをなくし、交通事故件数を減らす。	
		教職員間の情報交換を密にして、問題行動を未然に防ぐ。	職員の学年内外の風通しをよくして、生徒間のトラブルや問題行動が起きないように素早く対処する。また、いじめ案件や問題行動が起ってしまった場合には、個ではなく、組織的に迅速に対応する。	
		教育相談活動を充実させる。	年3回の面談（2回は担任及び副担任との二者面談、1回は保護者面談）に加えて、S Cによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、生徒が一人で悩み等を抱えこまない環境を作る。	
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
	部活動の適正な運営や効率的・効果的な活性を図る。	多様化する生徒の活動ニーズに応えるため、可能な限り短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行い、部活動以外の様々な活動にも参加できるよう対策を講じる。		
		医・科学的観点を最優先に考慮し、適切な活動計画に基づいて指導する。		
	学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員等を中心に話合いの機会を設け、考え、判断し、必要なことを決定していくなど、活動を活性化させることで、主体的な学校行事の参加を促す。		
生徒会活動を通してキャリアパスポートを支援する。	多くの行事を通して、自ら企画立案し、振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	進路指導	進路ガイダンスの時期・内容・業者等を精査し、学年との連携を図りながら実施する。			
		進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	上級学校のオープンキャンパスや企業説明会への積極的な参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。		
			「進路の手引き」の発行に際し内容の校閲を行い、進路希望の実現に向けて有効活用させる。		
		進路の情報提供を充実させる。	情報やデータの更新を適宜行い、生徒や保護者、また企業や上級学校などの来校者に正確な情報を提供できるよう努める。		
		進路資料室を効果的に活用する。	掲示物や閲覧資料の整理に努め、生徒や職員が利用しやすい環境を整える。		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	衛生管理の向上を図り、感染症等の予防対策に努める。		
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。		
			外部講師を招いた性に関する講演会を実施する。		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。		
		清潔で安全な学習環境を目指し、環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	水質検査および室内環境検査等を実施する。		
	清掃道具を速やかに補充し、校内美化に取り組む環境を整える。環境美化への主体的な取り組みができるよう、委員会活動などを通して働きかける。				
	図書	図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援する。情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置や資料の整理、装飾の工夫、迅速な手続き処理などにより、図書室を利用しやすい環境にするよう努める。		
		読書習慣の推進と育成を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を目指す。	1年生全員にオリエンテーションを実施する。図書室の利用法を周知することで読書及び学習活動の充実を図る。		
			新刊本の表紙や読みどころを掲示・表示することで、図書への興味・関心を喚起する。		
			リクエストボックスやアンケートを通して購入希望図書を募り、希望の60%以上の購入を目指す。		
			生徒が構成に関わった「図書だより」を年間3回以上発行し、読書のよさを周知するとともに読書に対する関心を高める。図書館関係行事の広報に努める。		
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収などの活動を通し、図書委員の主体的な活動を推進する。			
	渉外	各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	在校生の保護者を対象とした学校公開日をはじめ、各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。		
			高P連やさわやかマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
学 年	一年次	基本的な生活習慣を確立させる。	日常生活における挨拶の励行、制服の正しい着装、身の回りの整理整頓を促す。		
		欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識をもって生活する。	規則正しい生活を送るために、時間の使い方を考えさせる。また時間に遅れず行動することを習慣づけ、集団生活における時間厳守の重要性を理解させる。		
		鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。	本校のルールを理解し遵守させ、SNSなど情報モラルの指導を徹底し、規範意識の向上に努める。		
		授業・学校行事の大切さを理解させる。	授業や学校行事へ意欲的に取り組めるよう、自ら考え行動できる主体性を育てる。		
		進路意識を高めさせる。	LHRや進路ガイダンス等を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。		
	二年次	基本的な生活習慣と規範意識の確立	集団生活において、校則を遵守し行動できるようにする。また自律的な判断力と規範意識の向上に努める。		
		コミュニケーション能力の育成	自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えるとともに、相手の気持ちに寄り添って最後まで話を聴く姿勢を身につけ、他者との協調性を高める。		
		学校行事への意欲的な参加とリーダーシップの育成	行事への参加を通じて、学校の一員である自覚を深め、充実した学校生活を送れるようにする。また、特別活動の場において中心的な役割を担い、リーダーシップを発揮する力を育む。		
		主体的に学習する態度の育成	タブレットを活用するなどして、自主的に学習に取り組む姿勢を育成する。また、資格取得に向けても、主体的かつ計画的に取り組めるようにする。		
		進路実現への準備	進路ガイダンスやインターンシップを通して、具体的な進路先のイメージを持てるようにし、進路意識を高める。		
	三年次	生徒の希望する進路実現	必要な進路行事を適切な時期に実施することによって、進路に関する情報を生徒や保護者に提供するとともに、履歴書や願書の書き方や面接のスキルを身につけさせる。		
			就職者の早期離職や、経済的な理由での進路変更がないよう、面談等を通して保護者としっかり連携しながら、3学年職員全員で生徒一人一人にきめ細かく進路指導を行う。		
		社会人となるために必要な知識やマナーの習得	各教科と連携を図るとともにスタディサプリ等のICTを活用しながら、一般常識や、社会生活において必要な知識の定着に努める。		
			学年全体でより一層資格取得に取り組むとともに、情報ビジネス科の生徒など上位の生徒は、難易度の高い資格に積極的に挑戦するよう促す。また、商業高校の特徴を活かして、金融教育を行っていく。		
			成人年齢を迎えることから、法の遵守や社会規範、選挙等を通して社会に参加する大切さを、折に触れて周知していく。また、他者を思いやる寛容な精神や協調性を身につけられるよう、日常生活を通じて指導する。		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った